

一般社団法人 薬学教育協議会

令和元年度実務実習の良い事例集 (項目別)

－ 施設について －

(平成 31 年 2 月 25 日～令和 2 年 2 月 16 日)

目 次

薬局実習

薬物療法の実践	3
在宅医療における薬物療法の実践	4
医療連携の体験	6
チーム医療の実践	6
地域包括ケアの実践	6
災害時医療の体験	8
協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施	8
充実した実習環境と指導体制の構築	9

病院実習

薬物療法の実践	14
医療連携の体験	15
医療機関におけるチーム医療の実践	16
充実した実習環境と指導体制の構築	17

凡 例

- ◇ 大学・学生側から見た良い事例を集めました。
- ◇ 大学名：非公開
- ◇ 記載事項：
 - 区分：病院、薬局
 - よい実習を行った各施設の特徴（見出し）
 - 具体的な説明（概要）及びまとめ
- ◇ 実務実習実施日程（原則）
 - 第Ⅰ期：平成31年2月25日（月）～令和元年5月12日（日）
 - 第Ⅱ期：令和元年5月27日（月）～8月11日（日）
 - 第Ⅲ期：令和元年8月26日（月）～11月10日（日）
 - 第Ⅳ期：令和元年11月25日（月）～令和2年2月16日（日）

【地域の特色ある薬局・薬剤師について深く考察】

- ・臨床のみならずエイズ治療の研究開発の最先端を担っている病院から主に処方箋を応需していることから、学生が HIV に興味を持ちその地域ごとの特色ある薬局や薬剤師について深く学ぶことができた。他の疾患に比べて新しい薬や情報が更新され、より積極的な薬剤師の姿勢が問われる。また、病気に対する正しい理解を患者やその家族、国民にも周知しなければならないという責任感を醸成する実習が実施され、学生も現状と将来への課題を考察することができた。
- ・薬剤師は患者さんの話に耳を傾け、患者さんの気持ちを常に考えながら、調剤や服薬指導を行う。薬局は、薬剤師がもっとも患者さんとお話する時間が長い場所であるため、病院で医師に伝えづらいことや、薬に関する希望や、薬と関係ないことでも患者さんが気にされることなど、すべてにおいて気を配ることが必要であり、いろいろな考えの患者さんの服薬指導を通して、体感することができた。

【トレーシングレポートの作成】

インスリン治療中の糖尿病患者に投薬する際、患者との会話から低血糖の可能性が疑われたため、指導薬剤師と一緒に開業医へトレーシングレポートを作成した。その後、実際にインスリン単位数が減量され、作成したトレーシングレポートが安全な薬物療法に繋がることを実感する貴重な経験ができた。

【実習初期からのカウンター業務実施】

- ・実習第一週目からカウンター業務を実施しており、11 週間で 200 件以上の服薬指導の経験ができる。健康サポート薬局、地域かかりつけ薬局でもあることから、調剤薬局では地域医療における貢献度が大きいという理解をさらに深めることができる薬局である。また、在宅医療では医師の往診に同行することができ、血圧測定や脈拍測定などのフィジカルアセスメントの経験もすることができる。特に早い時期から服薬指導を経験することができ、大変充実した実習を受けることのできる薬局である。
- ・数多くの服薬指導を経験し、薬剤師としてのやりがいを実感し、患者サポートに関するスキルを身に付けることができた。また、人工透析患者の薬物療法についても学習することができ、幅広い知識を吸収することができた。

【外来通院患者を担当し、クリニカルクラークシップが実践できた一例】

- ・実習 1 週目より外来通院患者を担当させていただき、実習期間中、計 6 回、患者対応・服薬指導をさせていただいた。また、その患者について、学生カンファレンス（学生が担当患者についてプレゼンをする症例検討会）を 2 回行っていただき、参加していただいた指導薬剤師やほかの薬剤師、担当教員とのディスカッションを通して、多くの気づきが得られた。その中で、疾患毎ではなく、患者全体を把握した上で、患者の生活環境や EBM、服薬指導のポイントなどについて、理解を深め、薬物治療の提案を行った。実習生は、複数回に渡り、同一の患者と関わることで、患者の問題点を

しっかりと捉えることができ、患者一人一人に合わせた薬物治療や服薬指導の重要性を学ぶことが出来た。

- ・問題点の立て方や薬物治療を評価していくプロセスを深く理解した。EBM や NBM、患者が置かれている生活環境を考慮した上で、最適な治療を提案していく重要性を学んだ。

【セルフメディケーションに関わる薬剤師の重要性を学ぶ機会になった例】

セルフメディケーションに関わる薬剤師の役割とその知識を学ぶ実習を体系的に指導されていた。適切なセルフメディケーションの支援を行うため、どこが、どんな風に、どれくらい、どんな時に、いつから、良くなることや悪くなることなど、を聞き取りすることは重要である。本実習で、買い置きのお薬（子供にも使える薬）を購入するために来局。子供にも使える薬を来局者の聞き取りから適切なOTC販売を学ぶことができた。

【ジェネリック医薬品の選択】

実習生が服薬指導中にカプセル剤の服用が困難な患者から錠剤に変更したいとの相談を受け、4社から発売されているジェネリック医薬品の中からどの薬剤を選択するのかについて、実習生が中心となって患者のニーズや品質に関する情報を収集・比較し薬剤の提案・採用を体験することができた。

【吸入薬の適正使用】

事前学習でのロールプレイにより吸入器の使い方や吸入指導について学んでいたが、実際の服薬指導で吸入器が正しく使用できていない患者への吸入指導を体験し、実践することの難しさや重要性について理解を深めることができた。

—在宅医療における薬物療法の実践—

【実習環境が整っており、在宅医療も積極的に実施している施設】

在宅医療で患者宅へ指導薬剤師と実習生が訪問し、実習生が服薬状況確認、服薬指導を実施している。また、実習生が、看護師、薬剤師との打ち合わせに参加するなど、充実した在宅医療の実習を実施して頂いている。

【地域に深くかかわる薬局】

- ・地域に深くかかわる薬局薬剤師の姿を具体的に学生が体感することができた。具体的には、往診同行で処方薬の変更を提案する実習だけでなく、その後のフォローアップを学ぶ機会を与えた。長年吸入デバイスを使っていた患者に再指導する必要性と操作のピットフォールになりやすい箇所を考えさせ、その対策を考えさせた。
- ・薬の情報だけでなく、患者さんの様子から得られる情報を大切にする。会話の中から得られる患者さんの症状変化や吸入薬や点眼薬の癖など、患者個々が弱い部分を重点的に指導する必要性を感じ、それを実践することができた。医師と同行することで医療者同士の情報共有がスムーズになり、患

者の症状の変化に対応しやすくなると分かった。薬価や規格、薬のエビデンスなど薬剤師が詳しく知っていることを医師が処方するときに助言し、より良い薬物治療を実践できた。

【在宅診療を受けている患者の継続的な薬剤管理】

在宅診療を受けている患者から便秘の訴えがあり、実習生が往診している医師へ下剤を選択して処方提案を行い、実際に処方していただいた。その後、その患者宅へ通い、排便状況のフォローアップも含めて一人の患者について継続的に責任を持って担当することができた。「薬学的管理指導計画書」「訪問薬剤管理指導記録簿」「医師への報告書」などの作成も実際に経験し、訪問薬剤管理指導の一連の流れを修得できた。

【在宅業務を積極的に行っている施設】

在宅医療を積極的に行っており、学生は多くの回数同行させていただき、在宅業務に関する様々な体験が行えた。

【医師回診に同行した在宅医療】

高齢者介護施設の訪問薬剤管理指導実習を医師の回診日に合わせて実施した。医師回診に同行して、医師の診察の状況、入居者様へのコミュニケーションの取り方等を間近に体験した。回診後に、実習生は、指導薬剤師が同伴して服薬指導実習を行い、医師回診時の様子を思い浮かべながら入居者様と良好なコミュニケーションをとることができ、さらに、処方意図の理解が深まった。

【実習環境の整った施設】

薬剤師業務を偏りなく教育した。在宅業務も数多くされているので週一回は同行し、在宅での服薬指導なども経験することができた。

【充実した在宅業務の実施】

充実した在宅業務を継続して体験することができ、数多くの在宅患者の服薬ケアを行うことができた。

【在宅医療】

在宅医療が開始となる患者の退院時カンファレンスや担当者会議に参加した後、患者宅への訪問薬剤管理指導に同行し服薬支援を体験することで、在宅医療における薬剤師の役割や多職種との連携について広く理解することができた。

【一人の在宅患者さんに深く関わりながら実習を行った例】

- ・実習期間中、在宅患者を担当させていただき、計10回訪問し、患者対応をさせていただいた。その中で、薬物療法や患者さんの思いにも深く関わり、多職種とも連携し、医師への処方内容の確認や提案を行った。実習生は、頻回に患者と関わることで、薬物療法について深く理解し、患者の思いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学ぶことができた。
- ・薬物療法について深く理解した。患者の思いも考慮しながら、患者にとって最適な治療を考える重要性を学んだ。

—医療連携の体験—

【薬業連携や学校薬剤師の研修会への参加】

薬業連携や学校薬剤師の研修会への参加の機会を提供してもらい、数多くの体験ができた。

【充実した在宅業務・ケアマネとの連携】

充実した在宅業務を継続して体験することができ、ケアマネ等との多職種連携を行うことができた。

—チーム医療の実践—

【近隣のケアホームでのチーム医療の経験について】

- ・本薬局は高齢者複合施設の一部であり、ケアホームやクリニックと隣接している。そのため実習期間中、毎日のようにケアホームの健康管理室で入居者全員について、医師や看護師との申し送りに参加することができ、また、回診にも同行することができる。薬局実習であるが、病院実習のようなチーム医療の経験をするのできる薬局であり、薬局薬剤師の業務内容についてより深く理解をすることができた。
- ・地域に貢献する薬局薬剤師の役割について深く理解した。薬局内で入居者の介護記録、血液検査データ等も閲覧することができ、入居者のモニタリングを行い、多職種との情報共有を実施し、チーム医療の重要性について多くのことを学んだ。

【薬剤師以外に栄養士がおり、多職種で患者のケアを行っている施設】

薬剤師だけでなく、栄養士からも栄養学的なケアについて深く学ぶことができ、多職種で患者ケアを行うことの重要性を実感することができた。

—地域包括ケアの実践—

【地域健康支援活動】

前年度まで実習施設の課題として、患者・来局者向けの「病気や健康」に関するテーマを学生が選択して情報発信のための掲示用ポスターと配布資料を作成していた。今年度より地域医療への貢献を視野に入れて、地域住民に対する情報発信となるようテーマを変更した。I期の実習生については全員が、従来の掲示用ポスターと配布資料作成に加えて、地域住民を対象とした講演会での発表の機会を得ることができた。この体験をとおして、アイコンタクトの必要性、相手に合わせた説明の仕方、理解を確かめながら説明することなど、約1時間と限られた講演会の時間内でコミュニケーション能力の重要なポイントに学生自らが気づき、成長を実感できた実り多い体験ができた。

【地域活動や健康サポート活動を積極的に行っている施設】

面分業の薬局であり、高齢者講演会や学校薬剤師等の地域活動・健康サポート活動についても深く学ぶことができた。

【健康サポート薬局】

健康サポート薬局は数が少なく、他の実習施設では経験できないことを多く経験できた。

【一人薬剤師勤務の薬局。介護施設と連携した実習環境の整った施設】

マニュアルに従い、偏りない実務教育が行われた。薬の配送工場を見学した。介護施設への薬の配送および服薬指導を通じて、地域薬局の役割を果たしている。

【地域医療の現場体験を含む薬業連携】

地域住民向けのセミナーを開催しているが、その講師の一部を実務実習の学生に担当させることで、地域薬局の役割を経験する機会を設けている。

【実習環境の整った施設】

学校薬剤師の業務も体験することができ、小学生の前で麻薬についての講義をさせて頂いた。

【参加体験型で学ぶ「地域医療」】

地域ケア個別会議に見学実習出来るプログラムが組まれている。事前に指導薬剤師と共に薬学的視点からどのような提言ができるかを検討した。その後の会議では、介護士・ケアマネージャー・訪問看護師等他職種とどのような議論が実際に行われているかを学ぶことができた。

【地域において薬剤師としての職能を存分に体験学習出来た事例】

- ・様々な店舗や診療所に訪問したため、処方内容の幅を広く学ぶことができ、とても充実した実習内容であった(内科・循環器科、小児科、消化器内科、皮膚科、歯科、夜間救急外来など)。児童館での交流会と産業文化祭で、お薬手帳カバーを地域の方と作り、関心を高めてもらうような取り組みをした。産業文化祭に薬局として参加しており、健康相談や血圧測定なども経験できた。複数の(4施設)施設の往診に同行させていただいた。それぞれの施設で4~15人ほどの診察に同行し、採血やインフルエンザの予防注射をしていた方々もいて、とてもいい経験になった。薬の味や形、半錠にする際の柔らかさなどの細かな点も体験して知ることができたので、患者さんへ処方する際にブラスアルファの情報として伝えることができるようになり、実習生として自分の成長を感じられた。
- ・患者さんや地域住民との交流を積極的に行ったことで 地域における薬剤師の役割を十分に体験でき、学生自身も成長に繋がったと実感している。

【セルフメディケーションに関わる薬剤師の重要性を学ぶ機会になった例】

- ・セルフメディケーションに関わる薬剤師の役割とその知識を学ぶ実習を体系的に指導されていた。適切なセルフメディケーションの支援を行うため、どこが、どんな風に、どれくらい、どんな時に、いつから、良くなることや悪くなることなど、を聞き取りすることは重要であることを学ぶ良い機会を与えて頂いた。

また、学生は、OTC 医薬品の販売だけでなく、煎じ薬、自家製剤の作製、学校薬剤師など他の薬局ではなかなか経験できないことを多く経験させていただき恵まれた環境で実習を行うことができた。

- ・患者さんや他の薬剤師の先生方から信頼され、愛されている様子や丁寧な調剤と丁寧な投薬を間近で勉強させていただき、理想の薬剤師だととても尊敬しています。当該薬局の薬剤師の先生方は何か得意とするものを持っている方が多く、薬局薬剤師のイメージが大きく変わる機会となった。

【在宅医療】

介護施設での訪問時に、フレイル・サルコペニア対策における薬剤師活動の重要性を体感することができた。

—災害時医療の体験—

【体験に基づいた災害医療と薬剤師を学ぶ】

東日本大震災時の薬局薬剤師の活動を体験者から学び、震災当時の手書き処方箋など残された記録を見せてもらうことで、学生は当時の様子が鮮烈に脳裏に浮かんできたと言う。その場になくとも、学生が体験型の実習を実感出来た良い実習であった。

—協力薬局とのグループ（他施設）実習の実施—

【実習内容の偏りに配慮する施設】

1 店舗では処方内容が偏るため地域他店舗での実習を通して種々の領域の処方に触れることが出来るよう配慮頂いた。各店舗の移動が実習生の負担にならない様、送迎する等配慮が有った。

【グループ内薬局間での連携体制が整った施設】

お互いの実施不十分な実習内容（在宅等）をグループ内で共有し、施設間で連携し実習を実施して頂いた（あるいは、2期に向けて実施する計画を立案して頂いた）。

【グループ内で多くの体験ができる】

グループ薬局間の連携により、子育てマイスター、お薬教室など、実習生はさまざまな体験ができた。

【協力薬局とのグループ実習の実施】

本薬局では湯液剤の調製等、漢方業務内容の実習の一部を近隣実習受け入れ薬局の学生に対しても協力薬局として実施し、地域の薬局の均一化に協力している。

【数箇所の系列の店舗での調剤業務を体験】

数箇所の店舗に実習生を派遣し、各店舗が取り組む業務を体験させている。

【複数店舗における実習により多くの経験や学びを与えてくれる実習体制の施設】

薬局ごとの体制の違いや様々な処せんに触れて欲しいという方針の下、異なる薬局における実務を経験できる連携体制が整えられている。

—充実した実習環境と指導体制の構築—

【他店舗実習による薬剤師業務を幅広く経験できるシステムの構築】

他店舗での実習（例えば OTC を良く扱っている薬局など）を行うことにより、薬剤師業務を幅広く経験できるシステムを構築している。

【実習生 2 名が充分経験できる薬局】

- ・適度な処方箋枚数で薬局業務としても適度な余裕がある。
- ・指導薬剤師は様々なレベルの学生がそれぞれ成長していくことを楽しまれている。
- ・県内では数少ない健康サポート薬局

【学生と目標を共有できる薬局】

概略評価表を、一週間の振り返り時に学生と目標を共有するために役立てることが出来た。

【かかりつけ薬局・薬剤師としての姿の見せられる施設】

かかりつけ薬局・薬剤師としての機能を十分に果たしている薬局で実習が行えた学生より、指導薬剤師の行う業務を見学し業務を経験することでかかりつけ薬局・薬剤師の意義を十分に理解できた。

【学生から好評な実習】

薬局業務について、丁寧、熱心に教えていただき、先生方をはじめ、スタッフ方々とも接しやすい施設であった。

【学校薬剤師の実習における対応】

2 月からの実習では学校薬剤師業務が、3 月末まで冬季であり、ほぼ皆無であるため、4 月から実施しなければならないが、学校が 4 月に入って忙しいため、第 1 期における薬局実務実習は学校薬剤師の実習はできない可能性があった。しかし、少しでも体験できるように 5 月に入ってから、実施できるように対応していただいた。

【参加・体験型臨床実習】

参加・体験型臨床実習実施計画書に基づき実習。学生は自分の担当以外の患者さんとのやり取りにも耳を傾け、積極的に学ぶ姿勢で臨んだ。

【充実した実習環境と指導体制の構築】

薬局製剤及び漢方薬に力を入れており、一般の薬局では体験できない実習を実施できた。

【実習システムの有効利用】

日々の実習内容をまとめる意味で、システムの日誌にある添付機能を最大限利用して、調べたことをファイル添付して後から利用できるように工夫していた。

【実習環境の整った施設】

- ・勤務薬剤師の人数が多いので、常に指導薬剤師の先生が指導していただいた。
- ・薬局内にDI室があり、その資料等を使用して調べ物や勉強ができた。
- ・精神科領域の薬剤や漢方専門の先生も在籍しており、講義をして頂いた。
- ・実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができたため、実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえる指導体制であった。

【実習生の持病を配慮した指導を行った施設】

- ・実習生の持病を、実習生、指導薬剤師、担当教員が実習前に十分情報共有を行ったため、実習中に増悪するのを未然に防ぎ、悪化した場合も少し休憩をとれるような配慮を行ってもらえた。実習生も、自己の健康管理に努力し、無事実習を終えることが出来た。
- ・健康な学生でも実習中はストレスを抱えがちであるが、体調管理に気をつけ、また体調不良時にも薬局の皆さんの支援を受けたことで、実習を無事遂行し、本人が自信をつけ自己効力感が高まっていた。

【実習生の成長に合わせたオーダーメイド的指導と背負いすぎない自然体での実習環境】

- ・実習生の成長をこまめに把握して、できていない内容や実習生自身が改善案を見出している事項について、重点的に割り振るような指導の工夫があった。
- ・過剰な期待やプレッシャーなく、「今は」できない、ではどうすればできるようになるか、の気付きを促し、それをトライする環境を提供してもらえる。
- ・薬局や提携している施設では不十分な項目について、正直に大学へと相談してもらえる判断の良さ。何が実習可能で、何が不可能かを明確にしてもらえることで、続く病院実習で重点的にお願いしたい事項を、事前訪問で病院側に伝える事ができる。

【指導薬剤師と学生の二人三脚】

- ・実習期間中、学生が理解できたこと、できなかったこと、実践できたこと、できなかったこと、できなかったことに対する改善策についてこつこつと丁寧に記載し、指導薬剤師がそれに答える形で指導薬剤師としてのコメントをほぼ毎日記載されており、学習成果を積み上げていく様子が日報、週報、振り返りから見て取れる内容であった。
- ・薬剤師として生涯学んでいく態度やPDCAサイクルのような方法論について11週一貫して続けることができた。

【実習報告会の繰り上げ実施】

これまで実習最終日だった実習報告会について、一週間早めて実施された。根拠として、実習での取り組みを発表することで修得できたことを残りの期間でさらなる臨床技能の向上に活かすことが可能であるとの判断からであった。他県薬剤師会でも検討中である。

【充実した実習環境】

11 週間全般に亘って、積極的に実習に取り組むことができ、実習生として、疑問点や不明点を積極的に質問しながら解決する、プロセスを体感することができた。本実習が、地域の中での薬剤師の役割を真剣に考える機会になった。

【実習環境の整った施設】

薬剤師業務を偏りなく、OTC や施設とのかかわえる指導体制。

【実習内容に合わせて前半と後半で実習時間を変更した施設（1 薬局完結型の薬局）】

5 週目までは、実習時間は基本的に平日 9 時～17 時。

患者対応も行いながら、患者の少ない時間帯は調べ学習や指導薬剤師とのディスカッション、他施設の見学等にあてた。

6 週目以降は、患者対応をメインに実習するため、実習生と指導薬剤師が話し合い実習時間を変更した。患者の多い夜や土曜日午前にも実習を行う代わりに昼休憩を長くした。

指導薬剤師の配慮もあり、実習生は体調を崩すこともなく、多くの患者と関わることができ結果として実習生の成長につながった。

【経験豊富な指導薬剤師】

経験豊富な指導薬剤師に指導していただけて、実習生の良いところ・悪いところを冷静に判断していただき、実習生に合った指導をしていただけた。実習生は自分の弱点・悪いところを改善するよう努力し、成長する機会になった。

【薬剤師としての理想的な姿】

大変熱心に、丁寧に指導してくださった。患者さんに対しても分かりやすく丁寧な対応をされていた。薬剤師としての理想的な姿を見る事ができました。

【実習生の希望を取り入れ、モチベーションを向上させる実習】

実習生の理解度にあわせ、随時、希望を取り入れた実習計画を立てることで、実習生が主体的に取り組むことができた。

【ストレスフリーな実習】

薬局業務について、気さくに声がけをいただいて、先生方をはじめ、スタッフ方々とも接しやすい施設であった。

【漢方関連実習環境の整った施設】

薬局薬剤師業務を偏りなく教育したうえで、漢方関連業務について幅広い内容の教育が行われていた。学生も、漢方関連業務を通して、薬局業務を学び、薬局の成果報告会でも、最優秀ポスター賞を受賞する内容にまとめていた。

【病院実習との繋がりを考慮し、連携体制が整った施設】

他の薬局施設だけでなく、病院の指導薬剤師とも密に連携し、薬局実習で実施できた内容や不十分な内容を報告できるグループ協議を主導的に計画、運営して頂いた。

【対人業務に関する内容が中心の実習】

調剤等の実習は当然であるが、実際に患者さんと接する機会を増やし、個々の患者さんに応じた様々な対応の必要性を実体験できた。

【充実した実習カリキュラム及び実習早期からのカウンター業務の実施】

- ・実習早期からカウンター業務を実施している。毎日のように午前中の一部の時間に講義があり、配布資料にも具体的な例が含まれているため実際に実習を行う上で有用であり、しっかりと実習した内容を吸収することができる。外来がん治療認定薬剤師の資格を有した薬剤師がおり、がんについても学習することができ、他の 8 疾患についても問題なく学ぶことができる。特に早い時期からカウンター業務を経験することができ、大変充実した実習を受けることのできる薬局である。
- ・薬局実習を行ったことで、薬局薬剤師の業務内容をしっかり把握することができ、薬剤師を目指す上での向上心、責任感が身に付いたような言葉が学生の方から聞かれた。充実したカリキュラムの中で薬剤師業務を経験し、薬剤師としてのやりがいを実感し、患者サポートに関するスキルを身に付けることができた。

【実習環境の整った施設】

- ・指導薬剤師や、グループ薬局での指導が充実している。
- ・処方箋調剤以外に、在宅や健康サポート薬局としての取り組みが体験できる

【退院時カンファレンスへの参加】

地域における病院との連携について理解が深まった。

【ロボピック見学】

0420 通知（調剤業務のあり方）について深く考える機会を得た。

【認知症カフェ参加】

地域における薬剤師の役割について理解が深まった。

【実習内容の偏りに配慮する施設】

1 店舗では処方内容が偏るため同地区他実習施設と協力し実習を通して種々の 領域の処方に触れることが出来るよう配慮頂いた。

【適切なアドバイスをする施設】

学生の興味に沿った指導を行い日誌も毎日確認しできなかった事・失敗した事に対するアドバイス、疑問に対する回答をして下さったことにより、学生が自分の足りない点や改善策を考えやすく多くの成長を感じることができた。

【薬業連携や学校薬剤師の研修会への参加】

薬業連携や学校薬剤師の研修会への参加の機会を提供してもらい、数多くの体験ができた。

【充実した外部研修】

薬剤師会研修、勉強会に多く参加させてもらい、健康フェスタにも参加し活躍した。患者さんやイベントに来られた方にも積極的に接している事を高く評価された。

【多くの服薬指導の経験】

- ・実習生は覚えが良く指導したことをすぐに吸収できたため、多くの服薬指導・調剤ができた。
- ・到達度評価もほとんどの項目を早期に評価できたため、後はそれぞれの質を上げることができた。

【実習環境の整った施設】

系列の他の薬局での実習の機会が多くあり、調剤室の設備や処方箋の内容も大きく異なっていることで、学生は幅広い経験をすることができた。

【対人業務に関する実習を早期から実施できた実習】

実習早期（1週目）から指導薬剤師の指導のもと、服薬指導等の実習が実施され、本来薬剤師として求められる対人業務を中心に体験できた実習。

【実務実習発表会】

3期に限定したことなく、2019年度において薬局実務実習の合同発表会を実施することにより、薬局間の実習内容の情報を共有されることによって、各施設のレベルアップにつながっていると思われる。

【実習初期からの継続した服薬指導体験】

実習初期から継続して一人の患者をモニタリングし、服薬指導を行うことができた。8疾患についても網羅することができた。

【1人の患者さんを継続して担当できた実習】

継続して直接患者さんと接することにより、治療経過を把握し、薬物治療だけでなく患者ケアまで提案し、治療に貢献することができた。

【実施されている薬物療法の是非について深く考える実習】

実際に行われている薬物治療について、添付文書、IF、ガイドラインだけでなく、論文ベースでエビデンスを調査し、その内容を指導薬剤師と共にディスカッションして、確度の高い情報を示すことができた。

【継続的な服薬指導】

代表的8疾患が取り入れられたため服薬指導の件数ばかりに気を取られていたが、そうではなく、一人の患者が入院されてから退院まで、持参薬確認、初回面談、治療計画、副作用確認、退院時指導と継続的な服薬指導を体験できた。

【TDM 業務と病棟業務の連携】

TDM 部門で免疫抑制剤の血中濃度測定や評価を体験した後に、病棟においてタクロリムス服用患者の血中濃度の評価や服薬指導を継続して実施することができた。

【海外の文献を用いた小児用量の確認】

病棟実習中に担当した患児の投与量について、Up To Date を参考に用量の検討を体験することができた。

【術前・術後の管理～例えばポリファーマシーの実践～】

変形性股関節症の患者への対応事例です。入院治療は、人工股関節置換術（THA）です。

入院時に13品目の持参薬の確認を行い、各々の使用目的の確認を実施した。特に不眠症の治療薬を8品目も服用中で持参した患者です。

THA 施行前後の状態管理や使用薬剤の確認、感染の状況等を確認したが、糖尿病既往があり、持参薬にクエチアピンがあり、糖尿病患者には禁忌を医師に疑義照会し、リスペリドンを推奨。加えて、専門医へのコンサルも提案した。最終的には、血糖値を共に経過観察することで対応した。術後、#疼痛管理、#高脂血症、#高血圧、#血糖値をフォローした。D ダイマー値高値と左下肢浮腫（+）により深部静脈血栓症（DVT）の危険あり、DVT の症状について患者に説明をした。なお、DVT 予防器具は装着済。

不眠症の治療薬を8品目でも#不眠あり、睡眠コントロール不良と判断、その中で患者から眠剤を減らしたいと要望あり。睡眠薬の減量について説明を行い、計画を立てた。置換法、漸減法、隔日法を提案。患者対話からデパス、セロクエル、ユーロジンを従来どおりの服用指示、ハルシオンは不眠時の頓用で減量を説明。患者から睡眠薬の不明な点や、減量可能なのか、不安な気持ちを持っていたが、時間をかけて減らしていくことが出来ること、無理にやめようとしなくてもよいこと、それによって「安心した」と、感謝の言葉あり。減量に成功した。

それ以外に#Dダイマー、#疼痛、#血糖値、#CK値、#かゆみと経過をフォローし、問題もなく経過した。

病棟で薬剤師が働くには、膨大な薬の知識が必要であることと、臨機応変に対応できる力が必要。看護師が薬の説明を行っていることもあり、薬剤師にできることは何か改めて考えさせられた。医師への疑義照会を通して、患者を守るための最後の砦が薬剤師であると感じた。

【実習初期からの継続した服薬指導体験】

実習初期から継続して一人の患者をモニタリングし、入院から退院まで薬学的支援を行うことができた。8疾患についても網羅することができた。

【継続して患者状態を把握することの重要性を認識できた実習】

Ⅱ期の薬局実習で担当した患者さんが病院実習施設に入院され、患者状態を総合的に評価し、薬物治療に活かすことの重要性を実際に経験することができた。

【病棟業務の適切な指導】

- ・病棟業務を指導する薬剤師のレベルが一定しており、学生にプロブレムリストを作成させ、フォーカスを明確にして介入について指導いただいた。これにより、学生が患者に何をすべきかを理解でき、チーム医療への参画や処方提案等の体験も積極的に行い、学生にとって有意義な経験となった。
- ・チーム医療への参画や処方提案等の体験を通して、学生はプロブレムリストの作成やフォーカスを明確にした介入をすることができるようになった。

—医療連携の体験—

【病院間の連携】

学生の実習病院は急性期病院でしたが、療養型病床や緩和病棟を持つ近隣の病院の見学が1~2日間程度計画されていました。急性期病院を退院した後の患者さんの治療の流れを理解することができる、大変良い試みであると思いました。

【病院と地域との連携が十分に経験できた例】

- ・病院のカンファレンスに、「薬局薬剤師」や「訪問看護師」も出席し、退院後のケアについて医師、病棟看護師、薬剤師と意見交換を実施した。
- ・院内とは違い、頻繁に患者宅を訪問できないことを踏まえて投与方法を検討するなど、実際に病院

薬剤師と地域の薬局薬剤師や管理栄養士、訪問看護師の方との連携を間近で見ることができた。チーム全体で患者さんに寄り添っていて、また患者さんもチームの方の顔を見るなり嬉しそうな顔をしていたのが印象的だった。信頼関係が感じられたとともに、地域連携が非常に重要であることを感じた。

—医療機関におけるチーム医療の実践—

【褥瘡チームにおける薬剤師の役割を学ぶ】

病院実習は、様々なチーム医療に参加しながら学べる特色がある。褥瘡チームもその一つであるが、薬剤師が活躍している施設は多いとはいえない。その中でも、薬剤師向け褥瘡研修会の定期的な開催など、専門薬剤師育成に努力している施設であり、実務実習においても褥瘡の基礎から褥瘡回診同行まで、褥瘡チームにおける薬剤師の役割を実感できる良いプログラムとなっている。

【病院薬剤師業務全般における充実した実習内容及び病棟業務の実践】

病棟業務の実施及びチーム医療への参画を通して、患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。また、実習終了後に学生から、「患者さんだけでなくその家族の人生までも考えてあげられるような、心から寄り添える医療人になりたい」という言葉を聴くことができた。

【充実した様々な種類のチーム医療】

NST、ICTなどの数多くのチーム医療に参加し、充実した多職種連携の体験ができた。

【充実した実習カリキュラム及び実習早期からの病棟業務の実践】

- ・ 充実した実習カリキュラムが組まれている。実習早期からの病棟業務が実施され、約 8 週間の病棟業務を実践できる。ほぼ全ての診療科の病棟業務を経験することができ、ICU、HCU での薬剤管理指導業務も経験することができる。週毎でのローテーションではなく、その日に色々な病棟に行き、様々な疾患の患者さんに服薬指導をすることができる。NST、血液内科等のカンファレンスにも参加することができ、チーム医療の重要性を理解する経験ができ、学生の満足度の高い実務実習が実施されている。
- ・ 病棟業務の実施及びチーム医療への参画を通して、患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、また、ICU や HCU での薬剤管理指導業務を経験することで、話しが出来ない患者さんへの関わり方、電子カルテでのモニタリングの重要性についても学ぶことができ、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。

【看護師への情報提供】

新コアカリキュラムでは他職種との連携が求められており、OSCE においても領域 5 に「医療従事者への情報提供」の課題が追加となっている。しかし、実際の医療現場では、実習生本人が病棟で主治医に直接話しかけることはハードルが高く、指導薬剤師が話しかけるのを隣で見学しているこ

とが多い。そんな中、病院 A では実習生本人が病棟看護師へ話しかける機会を積極的に設けていただき、それをきっかけに質の高い薬学的介入ができた症例を実習報告会で発表していた。

【医師への情報提供】

病院 A と同様に、学生からすると他の医療職とのコミュニケーションはハードルが高い。そんな中、病院 B では実習生本人が主治医や病棟看護師へ話しかける機会を積極的に設けていただき、それをきっかけに処方変更がなされるケースがあった。学生自身の責任感の醸成に大きな影響を与えていただいた。

一充実した実習環境と指導体制の構築一

【実習施設での病棟実習の希望調査】

病棟実習を実施する際、事前に指導薬剤師が実習生に「行きたい病棟」を聴取し、なるべく希望に添えるように配慮して下さった。学生からは「非常にやりがいがあった」等の感想があった。

【実習環境の整った施設】

- ・学生を受け入れる環境が整っている。
- ・指導薬剤師が温かく、的確に指導してくれ、学生がストレスを感じることなく実習に取り組むことができた。

【新コアカリキュラムに対応した発表会の評価方法の変更】

実習期間中に 2 回発表会（症例発表会、最終発表会）を行っているが、新コアカリキュラムの実務実習の評価が概略評価に移行したことに合わせて、発表会に参加した教員・薬剤師が記入する評価も、独自のルーブリック評価表を作成して今期試行してみた。ルーブリック評価表は今後も改良していく予定である。

【学生の理解度に合わせた実習】

学生の理解度に合わせて指導薬剤師が寄添い指導を行ったことで学生の理解が深まり、自主的に実習に臨むことができ成長が見られた。

【ストレスのない環境】

職員間の人間関係が良く実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができた。

【薬局－病院の施設連携（グループ）】

今年度からのグループにより薬局と病院の間で学生の情報が共有されている。

【指導に熱心な先生】

- ・学生の指導にとっても熱心な先生で、常に付きっきりで指導して下さった。調剤や服薬指導はもち

ろんのこと病院の業務を偏りなく教育していただいた。

- ・ 学生が薬剤部の雰囲気馴染みやすい環境作りをして頂いたため、早い時期からストレスを感じることなく実習に取り組むことができた。
- ・ 実習後半には自主性が高まり、それを評価してもらえる指導体制であった。

【病院薬剤師も参画した地元薬剤師会との学生実務実習にかかわる取り組み】

「地元のA薬剤師会」では、「A薬剤師会実習生交流会」が実施され、実習生、薬剤師が参加している。病院Bの病院薬剤師も参加しており、病院実習の開始以前から薬局実習の学生の顔と名前を憶えていた。病院・薬局の指導薬剤師および各指導薬剤師・実習生が、顔の見える関係でいるのは、実習生にとってとてもよい環境と思われた。

【医師へ積極的な処方提案】

薬効を評価し、薬物治療について医師と話し合いのシステムあり。

【病院薬剤師業務全般における充実した実習内容】

薬剤部内8部署（注射科、DI科、製剤科、院内調剤科、化学療法科、薬務科、臨床薬剤科、クリニック科）に分かれており、それぞれの部署にて指導責任者が設けられ、病院薬剤師業務全般にわたる充実した指導を受けることができる。病棟業務の実践は6週目位から本格的に開始となるが、病棟カンファレンス、各種委員会活動等にも参加させて頂き、充実した病棟業務の実践を経験することができる。チーム医療では糖尿病教室、ICT、緩和ケア、NST等への参画も積極的に行い、TDM、製剤業務、注射薬混注業務等満遍なく病院薬剤師業務を経験することができ、11週間学生にとって有意義な経験となった。学生の満足度の高い実務実習が実施されている。

【医師へ積極的な処方提案と多疾患への関与】

- ・ 薬効を評価し、薬物治療について指導薬剤師と共に医師へ提案。
- ・ 20名の実習生が多疾患の薬物療法へ関与するシステム

【チーム医療】

他職種の方々も質問に対して、丁寧に教えていただき、就職進路を考える良い機会をいただいた。

【透析医療における多職種連携実習】

実習期間中に、透析室の見学実習を行い、臨床工学技士から透析医療に係る説明を受けた。透析回路の整備、抗凝固薬の適正使用などについて教わり、病院内の多職種の役割を体験できた。

【多くの患者応対を体験する体制を整えている実習施設】

ほぼ毎日病棟に行く時間があり、多くの患者応対を体験させる体制が整えられている。多くの患者に接することができ、自分の自信にもつながったと実習生はコメントしている。

【視覚的に学べる8疾患】

脳神経外科領域の実習で「頸動脈狭窄症の治療方法」を学ぶ場合、内膜剥離術やステント留置術な

ど実際に手術中の動画を利用して、血管内壁の病変を確認することから初めてくれる。
その他循環器科領域では、カテーテル治療の見学も可能である。

【薬局実習での実習内容を受けて補完するプログラムの実施】

クリーンベンチ内での調製作業など薬局実習では不十分と考えていた内容を事前に伝えることで、その点を手厚く指導頂けるプログラム上の工夫があった（薬局から、施設的に指導不十分となってしまう項目について、正直に大学へと相談してもらうことが前提）。
また結核病棟という、施設が保有する特徴的な環境を活かして、専門的な内容についても触れさせる、アドバンス的な取り組みがある。

【充実した実習カリキュラム及び実習早期からの病棟業務の実践】

- ・ 充実した実習カリキュラムが組まれている。実習早期からの病棟業務が実施され、約 8 週間の病棟業務を実践できる。多くの実習生がおり、実習生のみでテーマを決めて行うスモールグループディスカッションも取り入れている。また、学生が日誌にその日の疑問点を記入すると、指導薬剤師がその都度回答スライドを作成し、その日の実習終了前に解説するシステムなども設けている。大学病院であるため設備も整っており、学生にとって有意義な経験となった。学生の満足度の高い実務実習が実施されている。
- ・ 病棟業務の実施及びチーム医療への参画を通して、患者さんへの関わり方、他の医療従事者との協力関係の構築などの重要性を学び、薬剤師として必要な知識の向上、コミュニケーション能力を深めることができた。

【充実したカリキュラムと教育環境】

最新の設備や、指導薬剤師らの丁寧な指導。

【地域医療の現場体験を含む薬薬連携】

診療科が幅広く、またへき地医療で地域住民との関わり方を学べる。

【精神科リエゾンチームへの参加】

精神科領域における薬剤師の役割について理解できた。

【OCT（口腔ケアチーム）への参加】

口腔ケアの重要性について理解できた。

【外来化学療法を受ける患者に対する実習生ケアの実践】

障害を持つために無菌調製の速度が遅い学生に対して、薬学部専任教員が実習病院で直接当該学生を指導することで、他の学生とは別メニューの外来化学療法薬調製や服薬指導を体験することができ、必要とされる到達度に達することができた。

【病院実習ならではの実習】

薬局で経験したことはあまり行わず、病院でしかできない業務（注射・抗がん剤・病棟活動）など

を中心に実習を行い学生の満足度が高かった。

【ストレスのない環境】

職員間の人間関係が良く実習生はストレスを感じることなく実習に取り組むことができ、委縮することなく質問をすることができる環境であった為、積極的に学習することが出来た。

【医師と話せる環境】

医師からの質問に対し、薬剤師と話し合い出した結論を医師とも議論することができた。

【自信に繋がる実習】

薬局実習では薬局の雰囲気馴染めず、服薬指導もできなかったが、病院実習では指導薬剤師に良いところを認めてもらえたため、失敗を恐れず積極的に実習に取り組めた。

【薬局・病院の指導薬剤師がお互いの実習内容を共有できる実習報告会を開催できた実習】

病院実習終了時に実施する実習成果報告会で、薬局実習で経験した内容も振り返り、報告することを計画して頂いた。本取り組みにより、薬局および病院の指導薬剤師が相互に実習内容や当該学生が22週間で経験したことを総合的に共有することができた。なお、本報告会には薬局実習で指導して頂いたグループ内の指導薬剤師も参加し、指導に携わって頂いた。

【効果的な実習発表会】

病棟実習の導入教育期間（5週目）に、実習生は病棟担当薬剤師と相談して実習発表会のテーマを決定する。病棟実習中（6～10週）には、症例実習と並行して、発表会のテーマについて調査を行い11週目に実習発表会を行った。問題解決能力の向上に役立てることができた。

【指導体制の工夫】

調剤、注射、病棟など業務ごと、学生ひとりひとりに指導薬剤師が担当しており、同施設で3名の受入にも関わらず、指導が行き届いていた。

【一人実務実習生への実習環境の配慮】

実習生は、当初、薬剤部内の薬剤師達と別の実習生用の場所を用意されていたが、一人実習生であったため、学生同士のロールプレイが出来にくい環境であり、薬剤師らからの仕事ぶりを直に感じられる環境の方が実習生にとってよいとの配慮があり、薬剤部内の薬剤師らと同じ場所に移って研鑽させてもらった。

【医薬品情報に関する実務】

薬事審議会への薬剤師の関りを学ぶために、審議会に必要な医薬品情報に関する資料の作成を体験することができた。

【治験】

国際的な共同治験に関わる貴重な体験を通じて、薬剤師としての CRC 業務についても学ぶことができた。

【多職種学生同士の症例検討】

医学部学生、看護学生、理学療法士と一緒に、同時期に実習をしている県内の薬学部実習生と数日にわたって症例検討を行い、多職種でのチーム医療について体験でき、薬剤師の求められていることを他職種の学生から直接学べたようだ。

【薬局実習から病院実習への効果的な連携】

第Ⅲ期薬局実習において、糖尿病に関する処方を学ぶ機会が多く、興味を持つようになった。第Ⅳ期病院実習においても継続し、「服薬指導によってアドヒアランスの向上した糖尿病の患者例」を研究課題として院内で発表した。この病院では、薬局実習との連携手段として、病院実習における研究発表会に薬局薬剤師を招き、合同討議を実施している。この学生の場合、糖尿病という共通のテーマを持ちながら、薬局から病院へと切れ目のない実習を体験したことで成長が著しかった。

【地域薬局との合同実務実習成果発表会実施】

病院実習終了時院内において実習成果発表会を開催し、病院内スタッフに対して薬学実務実習の成果報告をおこなっているが、令和元年度より、地域薬局薬剤師（指導薬剤師）を含めて院内の実務実習成果発表会をおこなっている。薬局と病院間の実務実習に関する情報共有が課題となっているが、薬局実習をおこなった施設の薬剤師（指導薬剤師）を病院実習の成果発表会に同席してもらうことで、薬局実習後から病院実習を経た学生の成長を知ることができる機会となっている。次年度は薬局における実務実習成果発表会についても合同開催することで、病院側に薬局実習の内容を伝達する機会となるよう計画している。

【実習生を介した薬薬連携・地域医療の活性化】

学生の薬局実習の指導薬剤師も招いての成果発表会を初めて行った病院。実習生を介した薬薬連携、地域医療の活性化ができればいいという話になった。できれば今後もこのような形で報告会をやっていきたい。大学としては学生を介して大学として地域医療の活性化に貢献できればありがたい。

【希望する診療科での病棟実習】

訪問担当教員の訪問指導に際し、実習生との面談において特定の診療科の病棟実習を希望していることが分かった。実務実習に対し意欲的に取り組む姿勢を感じることができたため、指導薬剤師・教員・実習生で協議し、他の実習生の病棟実習も含めても希望する診療科で実習ができるように再調整した。その後、実習生は実習の目標を明確にし、より一層意欲的に取り組むことができた。今回の病棟実習では、毎日の日誌、振り返り等の実務実習記録からも実習生の学習意欲向上につながったことがわかった。

【抗がん剤調製や TDM の実践】

抗がん剤の調製や病棟業務、TDM 検体の測定など多くの業務を実際に体験することで、病院薬剤師

の役割について深く学ぶことができた。

【ポリクリ実習】

ポリクリ実習では、薬物療法やチーム医療を臨場感を感じながら行うことができたという報告があった。